

会議名 第1回子ども・子育て会議

開催日 令和6(2024)年6月4日	会議時間	開会 AM・ PM 1:00 閉会 AM・ PM 2:40
会議場所 ニセコ町役場 多目的ホール3・4	記録者	こども未来課こども未来係 係長 谷井 彩乃
出席者 ニセコ町子ども・子育て会議委員 龍周作、上戸鎖保幸、菊地博、新井融、高井裕子、高橋美紀、片岡直人、徳留真子 事務局：こども未来課長 齊藤 徹、こども未来係長 谷井彩乃 (支援委託先)一般社団法人 北海道総合研究調査会(通称:HIT) 調査部次長 切通堅太郎、調査部員 野邊和沙		
欠席者 ニセコ町子ども・子育て会議委員 淵野伸隆		

会議日程

- 1 開会(あいさつ:齊藤課長)
- 2 委員等紹介(自己紹介)
- 3 会長、副会長の選出(立候補無し、事務局提案:会長…新井融、副会長…高井裕子)
- 4 議 題(議事進行:新井会長、説明:齊藤課長)
 - (1) 子ども・子育て会議の役割について
 - (2) ニセコ町幼児センター、こども館、放課後子ども教室等の状況
 - (3) 「第3期ニセコ町子ども・子育て支援事業計画」について ※(一社)HITより説明
- 5 その他
- 6 閉会

会議内容

1 開会

今回委員改選があったので、冒頭あいさつにて、課長より、委嘱について改めてお願いと子ども子育て会議について説明があった。

2 委員等紹介について

各々自己紹介を行った。

3 会長、副会長の選出

ニセコ町子ども・子育て会議条例第5条で、会長及び副会長各1名を置き、会長は会議を総理、副会長は会長の補佐を行うこととされている。立候補が無かったことから、事務局提案により、新井会長及び高井副会長を選出した。

4 議題

(1) 子ども・子育て会議の役割について

子ども・子育て会議の役割と、子ども・子育て支援事業計画の概要について、齊藤課長より説明があった。

(2) 「ニセコ町子ども・子育て支援事業計画」とニーズ調査について

ニセコ町幼児センター・こども館・放課後子ども教室等の現在の状況について、齊藤課長より、資料を用いて現在の状況について説明があった。

(3) 「第3期ニセコ町子ども・子育て支援事業計画」について

(一社)HITより、令和5年度に行ったニーズ調査の結果とそこからみえてくるニセコ町の特徴等について調査結果の冊子とその概要版を用いて説明があった。

4) 質疑及び意見交換

委員：幼児センターとこども館では、現在待機児童はいるのか？

→幼児センターは、現在1歳児クラスが1名。広域入所等も検討しており、早めに解消できるよう調整をはかっている。学童保育所については待機児童なし。

委員：アンケートの出し方について、今回はグーグルフォームからの回答だったが、回答率が低いので、今後に向けて、紙とwebのハイブリッドで行った方が良いのではないかと。また、今回のwebアンケートでページ更新が多く回答に時間を要したので、スクロールで完結できたり、回答を一時保存できるような機能を設ける等、回答フォームも無料版ではなく有料のものにして、作り方を工夫し回答者の負担を減らすようにした方が良い。

→現在の子育て世代はスマートフォン等デジタルに慣れている世代が多いことから、回答者の負担を減らす目的で紙ではなくweb回答とした。回答率を上げるため、回答期限を1ヶ月延ばし、リマインドも何度も行い、学童保育所や幼児センターでは紙のアンケートも設置する等行ったが、もう少し学校を通じてリマインドができれば良かったと感じている。今回の結果や意見については今後活かしていきたい。

委員：ニーズ調査について、何のためのアンケートなのか、回答したことでどう変わるのか、どう意見が反映されるのか不明だった。また、アンケートの内容的に、子どもを育てる保護者として一番興味のある設問は自由記述であるが、その設問にたどり着くまでがとても長く、なかなかリアルな声を拾うことが難しい構成のアンケートだったと感じる。

委員：このアンケートで回答した内容がどう公表されてどう叶えてもらえるのか。また、アンケートの選択肢が少なくあてはまるものがないのにどれかを選ばなければならぬ設問があった。

例えば、休日の保育も制度が充実しているわけではないので、休日は休む前提で仕事を行っている。本当は制度が充実していれば、休日も仕事ができる選択肢があるのに、と感じている保護者は多い。このアンケートでは、そういった保護者の本音に気づけないのではと感じた。

→子ども・子育て支援事業計画におけるニーズ調査の項目は、基本的には国で決められており、それに伴い設問数のボリュームが多いことや内容についてはどうしてもある程度は仕方ない部分がある。ただ、前回のアンケートであった町の独自の設問や重複するような設問は無くし、その分は自由記述で補えるように今回設定して調査を行った。事務局としても、何のための調査なのか、どう反映されるのかをもう少し詳しく、分かりやすく明記すべきだったと思う。

委員：子どもの祖父母との近居状況という設問で、ニセコ町は近居の祖父母がいない割合が約8割となっているが、他の自治体と比較してニセコ町はこの割合が顕著なのかどうか知りたい。

→近隣でいくと、京極町が約3割程度。その他の自治体についても調べておきたいと思うが、ニセコ町は移住者が多いこともあってか、とても都会的な割合だと感じている。

委員：ニセコ町は就学前・小学生児童のいる家庭で共働き世帯が約8割と高いように、自身も共働きで子どもを育てている。子どもが保育所で熱を出したとき、すぐにお迎えというのは仕事をしている以上難しいことが多い。迎えに行くまでに1～2時間程度猶予をもらうことができれば、といつも感じている。

委員：実際に子どもを預かる側としては、病児の子がいると、まず隔離をして他の子に感染させないように配慮し、保育士を1人つけて見ていなければならないので、保育所も人手が少ない状況の中でそういった対応をすることは保育士にとってもストレスのかかることだと思う。ただ、共働きで預けている側として、1～2時間の猶予が欲しいという思いもわかる。今後、保育施設の中で解決できないことは、ファミサポ等の別の制度を使ってそこから人を派遣してもらい病児の子を見るようにする等、すぐには難しいかもしれないが縦割り・制度を超えて検討をしていくことも重要なのではないか。

また、近居に祖父母がいても、今の祖父母世代も元気な人が多く現役で働いている人もいるので、預けるのが難しいという側面もある。移住者が多く近居の祖父母がいなくて預けられない、または近居の祖父母がいても一次産業に従事する人が多く預けられないというのがニセコの現状である。

委員：今の共働き家庭は、時間に余裕があるからパートに出るというような感覚よりは、生活のために共働きをせざるを得ない家庭が多いように感じる。子どもの数が少なくなっても、子どもを預けたいというニーズは増えていくのではと感じている。

委員：学童は児童数が減っているため学校の中でやりくりしたり、放課後児童ク

ラブと放課後こども教室を一緒に行ったりなどの意見もある。

委員：子どもを持つ世帯がほしいサービスについて、資格にフォーカスしなくてもよい。ファミサポのように資格がなくても手伝えるサービスがもっと増え、働く世帯を手伝えるようになるといい。

→今回、委員のみなさまより頂いた意見や、ニーズ調査の自由記載欄に書いてあった意見を参考としながら、計画の素案を作っていく。今後も、計画のみに限ったことではなく、ニセコ町の子育て支援全般に関して意見があればお聞かせ願いたい。

委員：子育ての環境を第2期計画よりもよりよくすることを大前提としつつ、こうなってほしいということを考えていく場が本会議になる。

委員：アンケート結果は、子育てするうえで必要最低限満たしてほしいという要求と、こうなったらよいという理想的な要求などが混在している。会議ではどちらを目指すのか。

→計画自体は、アンケート結果を踏まえた施策を作り、施策に基づき実施した事業に国と同から1/3ずつ補助金が支給される仕組みとなっている。一方、法に基づかないサービスの可能性もある。何でも行政がやるのではなく、青空自主保育ぽんぽろやニセコ未来サポート隊等の取組を行政が支援する方が早く取り組める場合もある。委員の皆さんの意見を伺いながら、バランスを見極めて進める。

5 その他

今年度会議は今回含め全3回を予定している。次回は、計画の骨子・素案を提示予定。今回時間が無くて意見が言えなかった方や、資料を見て何か思いついた方がいたら、メール等でも良いので意見を頂ければと思う。また、次回会議日程については日程調整を行ったうえで通知をする。

6) 閉会